

没後5年

いのちの鼓動を描く 堀 文子  
Rhythm of Life,  
Art works of Fumiko Hort 日本画家

展覧会名： 没後5年 いのちの鼓動を描く—日本画家・堀 文子  
会 期： 2024年4月20日[土]～6月9日[日]  
会 場： 佐野美術館  
開館時間： 午前10時～午後5時(入館の受付は午後4時30分まで)  
休 館 日： 木曜日  
入 館 料： 一般・大学生1,100円 小・中・高校生550円 \* 土曜日、5月5日(日)は小中学生無料  
主 催： 佐野美術館、三島市、三島市教育委員会、静岡新聞社・静岡放送  
後 援： 静岡県教育委員会  
協 賛： 伊豆箱根鉄道株式会社  
企画協力： 株式会社ナカジマアート  
特別協力： 一般財団法人堀文子記念館

## 展覧会の趣旨

佐野美術館は、2024年4月20日[土]から6月9日[日]の期間、「没後5年 いのちの鼓動を描く—日本画家・堀 文子」を開催します。

世界中を旅し様々な生命の形を描いた日本画家・堀文子(1918-2019)。なかでも繊細かつ色鮮やかな花の絵は、多くの人々に愛され、「花の画家」と呼ばれました。

本展は、82歳でヒマラヤに登り描き上げた《幻の花 ブルーポピー》ほか画業80年の代表作をはじめ、旅先でのスケッチ、挿絵原画など約60点を通じて、堀文子が生きとし生けるものから受けた感動の軌跡を、画家自身が残した言葉とともにたどります。

## 展覧会のみどころ

堀文子は、自由を求め画家を志し「群れない」「慣れない」「頼らない」をモットーとして、百年の生涯を全うしました。画家の独創的な作品とともに、その生き方やつむいだ言葉もまた、人々に愛され共感を得ています。没後5年を機縁とした本展は、堀文子の芸術と生涯を3章で紹介します。

堀文子は80年の画業を通じ、一貫して多様な命のかたちを表現しました。都会から自然豊かな環境に身を置くために移った大磯・軽井沢・そしてイタリアのトスカーナ。驚くべき行動力で世界各地を取材し訪れた先々で出会った逞しい人々や風景。病に倒れ奇跡的に治癒したのちに魅了された顕微鏡越しのミクロの世界。「一所不住」を旨とした画家は、自由な精神で作風を変転させながら、様々な画題に向き合いました。

代表作として人気の高い《幻の花 ブルーポピー》は、標高5000メートルのヒマラヤ山脈に挑み、困難の末にブルーポピーに直面し描いた作品です。堀文子は、この花に毅然と生きる人の姿を重ねました。

孤高の画家が残した作品と言葉を通じ、生命に対する新鮮な感動を、ぜひ展示室で受け取ってください。

## 広報用画像

本展の紹介記事等を掲載される場合、1～6の画像をデータでご提供できます。電話またはメールでご連絡ください。

※本展紹介以外での使用、本展終了後の使用、二次利用はお断りします  
※画像使用の際に、展覧会名、会期、会場、作品クレジットを必ずご記載ください



1.



2.



3.



4.



5.



6.

1. 《幻の花 ブルーポピー》平成13年(2001)
2. 《妖精(クリオネ)と遊ぶ》平成15年(2003)
3. 《月と猫》昭和25年(1950)頃
4. 《霧の野》昭和35年(1960) 東京国立近代美術館蔵
5. 《アフガンの王女》平成15年(2003)
6. 《名もなきものシリーズ どくだみ 露草 姫小判草》平成25年(2013)

## お問い合わせ

佐野美術館 広報グループ 深沢

〒411-0838 静岡県三島市中田町1-43 TEL 055-975-7278 FAX 055-973-1790

URL <https://www.sanobi.or.jp/> EMAIL [koho@sanobi.or.jp](mailto:koho@sanobi.or.jp)